

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 52 学校名 中津高等学校（全日制）

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。 (2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。 (3) 「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>	
<p>3つの方針 (スクール・ポリシー)</p>	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造力と協働力を身に付け、敬愛心をもって、将来グローバルに活躍できる生徒 ・ 自己を理解する力を身に付け、自らすべきことを考え決断し、自分を律しながら行動できる生徒 ・ 幅広く質の高い教養を身に付け、ものごとを深く探究し、自分の考えを発信できる生徒
	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、論理的に自分の考えを発信できるよう、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進 ・ 一人ひとりの学びを深め、自己実現につながるためのカリキュラム編成と、個に応じたキャリア支援の実施 ・ 地域や世界の抱える課題を考察・解決し、仲間と協力して新たなものを創造する力を育成する探究的な学びの推進
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い好奇心をもち、自分の考えを発信したり他者の意見に耳を傾けたりしながら、多様な学びに対し前向きに取り組もうとする生徒 ・ 自らの可能性を信じ、主体的に自分の進むべき道を見付け、それに向かって継続的に努力しようとする生徒 ・ 地域活動やボランティア活動、学校行事、部活動に意欲的に参加し、他者と協働して物事を成し遂げようとする生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここ数年入学定員を下回っている。 ・ 行事が多く、どの内容も濃いため、教員が時間外勤務時間が多い。 ・ 幅広い成績の生徒が入学し、多くの生徒の学習は量、質ともに未成熟である。 ・ 生徒自らが進んで学ぼうとする態度が十分に身につけていない生徒がみられる。 ・ 学校生活の各場面で受動的な姿勢で取り組む生徒が多く感じられることから、自ら主体的に行動できる生徒の育成が重要である。 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野 今年度の具体的な重点目標</p>	
	<p>学校経営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の魅力を高め、開かれた学校づくりを推進する。 ・ 教職員の勤務環境の改革に関する取組を推進する。
	<p>学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位制教育課程の効果的運用や学校内外の課題に素早く対応する。 ・ 授業改善に努め、意欲的に取り組む態度を育て、確かな学力を育成する。
	<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう助言と支援に努める。 ・ 個々の生徒の特性を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに、適切な情報を提供し、計画的な進路（人生）設計の補助に努める。
	<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人をより深く理解すると共に、将来のリーダーとなりうる生徒の育成に努める。 ・ 自己有用感、自己肯定感を育めるように生徒個々の活動を支援する。

年度目標				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	
学校経営	・生徒や教員にとって魅力のある学校づくりを推進し、中学校生徒及び保護者、地域住民への広報活動を積極的に行う。	20	施策IV-20	・体験入学、オープンスクール等のアンケート結果
	・長時間勤務の解消、ハラスメントとメンタル不調等の速やかな察知と解決に向けた組織・体制づくりに取り組む。	27	施策IV-27	・勤次郎やエントリースーツ、ストレスチェックの結果
	・職員会議等の機会を活用して、学校法規の内容や趣旨をよく理解し職務の遂行に専念するなどコンプライアンスの意識向上に努める。	28	施策IV-28	・不祥事防止や情報セキュリティ等各種のチェックシートの回答状況
学習指導	・各教科・科目の基礎・基本が確実に身に付く「分かる授業」を行う。	23	施策IV-23	・生徒、保護者アンケートの調査結果
	・評価テストの導入により学力の定着を図り、生徒の自主学習の充実を図る。	8	施策II-8	・生徒による授業評価を実施し、満足度やコメントによる評価
	・探究学習、教科横断的学習を取り入れる等授業改善に努める。	26	施策IV-26	
	・意欲的に学習に取り組む態度を育成するため、ICT・タブレットを活用した活用した授業を行う。	9	施策II-9	
進路指導	・各学年の年間計画と支援目標を設定し、3年間を見通した支援を行う。	13	施策II-13	・生徒、保護者アンケートの調査結果
	・生徒がより主体的に学問を探究する姿勢を養うため、総合的な探究の時間の内容を充実させる。	4	施策I-4	・各種事業実施後のアンケート結果
	・インターシップなどの体験学習を推進する。	13	施策II-13	・進路結果や生徒、保護者の満足度
	・保護者のための進路サポート勉強会を実施し、最新の進路情報を提供し、進路相談の充実を図る。	7	施策I-7	
生徒指導	・互いに個性を尊重し「意欲的な学校生活」「安心できる学校生活」を送れる生徒支援を推進する。	1	施策I-1	・生徒、保護者アンケートの調査結果
	・教育相談を多く実施するとともに、SCやS相を活用し、生徒間トラブルの早期把握、対応を行う。	3	施策I-3	・迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握
	・CCC活動の活用や地域に広がる自主的な生徒会活動、委員会活動を展開する。	4	施策I-4	・諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察
	・時間や場所にふさわしい身なりや行動がとれ、価値観の多様性を理解できるよう支援をする。	2	施策I-2	

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力が伝わる内容の中学校への説明会や夏の中学生体験入学、秋のオープンスクールの実施 学校だより等の積極的な発行 長時間勤務やハラスメントの防止への意識を高揚させるための職員研修の実施 コンプライアンス遵守への意識高揚のために守るべき規範の周知やアンケート等の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前年度と比べ、夏の中学生体験入学は351から446名の27%増加、秋のオープンスクールは58名から119名の105%増加した。 学校だよりは年間15号ペースで発行し、「すぐる」で保護者への広報を行った。 進路指導や部活動指導等で、半数近くの職員が時間外勤務は45時間以上であり、負担軽減や業務の見直しが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 評価テストの運営を改善して、短期間での復習サイクルに取り組み、授業目標の明確化を図る。 課題を廃止して、やらせることから脱却し、自分で考えて学習に取り組めるように促す。 授業改善週間を実施して、教科を越えて授業見学をする。 学習指導委員会を通して、教科ごとに活用状況の把握及び研究を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価テストの平均点は全教科で60～70%に達しており、今後さらに向上させたい。 学習時間は例年並みであり、課題に頼らず自分の学習に取り組んでいる。 授業内で定期的に探究型の授業を実施することが増えてきた。今後も継続したい。 ICTやタブレットの効果的な活用を今後も継続して研究する必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者のための進路サポート勉強会の実施 進路通信等の積極的な発行 Classiによる模試対策 ベネッセによる模試分析会の実施 1年生：弁論大会、2年生：探究学習発表会、3年生：ゼミ別学習での探究学習の充実 外部業者と連携した多数の講座の実施（小論文講座、大学出前講座、冬期特別補習など） 	B	<ul style="list-style-type: none"> オンライン、オンデマンドの併用で毎回80名近くが参加。 模試の振り返りを教科担任から配付するなど、振り返りを充実。 基礎力定着の向上。 客観的なフィードバックによる指導改善。 「総合的な探究の時間」以外の部分（授業等）との連携が課題。 新しい視点で教育活動を行うだけでなく、教員の負担軽減につながっている。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ほっとプレイスの設置 生徒会、委員会における学校祭の主体的な取り組み及び部活動の活性化 MSリーダーズによる啓発活動 SCによるカウンセリングと事後指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ほっとプレイスやSCによるカウンセリングを活用して、生徒のサポートができ、教室復帰にも繋げることができた。ほっとプレイスについては、更なる活用法を模索したい。 前期は中学校訪問や購買を開催、後期は新制服への方向性の模索や校則について考えるなど生徒会執行部が主体的に活動できた。 CCC活動は中津高校の特色であり、生徒の自己有用感や自己肯定感を育むことができるため、さらに盛んにしていきたい。 	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月13日

<ul style="list-style-type: none"> 探究活動について、「総合的な探究の時間」は進路支援部、「地域探究活動 地域探究チーム」や「ふるさと教育」は教務部が担当していた。探究活動を一括して担当する分掌「研修探究部」を設置し、生徒支援部で担当していた「CCC活動」も探究と位置づけ、研修探究部担当とすることで各分掌業務の担当を明確化する。 45分授業にし、朝のSHR後に「学びあいの時間（仮称）」を確保、その時間に評価テストを実施するなど、評価テストを最善のものにするため、運営についての課題に対して臨機応変に対応する。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月13日

<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が課題である。今後リニアが開業し、地域活性化が期待されることから地域で活躍する生徒の育成をお願いしたい。 中学校訪問や夏の中学生体験入学の際に生徒自ら考え行動したことは、探究活動の成果である。今後も探究活動を充実させてほしい。 「低学年から進路指導」については、早い時期から進路を考えることで自分を見つめることができ共感できる。 市内の複合施設で多くの生徒が勉強している姿をよく見る。保護者からも中津高校に入学させたいという声を聞く。中学生体験入学やオープンスクールの参加人数も昨年度に比べ多くなり、学校の取組みを評価する。地域住民としてはとてもうれしい。 中学生体験入学やオープンスクールで参加生徒数が増加したということは、教員の時間外労働時間が増加したことも関係していると考えられる。教員の負担軽減を実施してほしい。また、一般企業でも職員同士で意見等がぶつかり合い離職をする場合もあることから、健康管理も十分に行ってほしい。
--